日中 おかやま
題字 故原田 親
No.
日中友好新聞
発行所
日本中国友好協会
〒111-0053
東京都台東区浅草橋3-2-5
四谷ビル5階
電話 03(3830)2141(代)
FAX 03(3830)2147
http://www.jcfa-net.gr.jp
E-mail:nicchu@jcfa-net.gr.jp
振替 00110-1-21176
日中友好協会
岡山支部
〒703-8214
岡山市北区下伊福
西町1-53 民主会館1F
TEL・FAX(086)256-5806
日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福田町浦田2461-45
TEL・FAX(086)455-7860

日中倉敷支部第19回 定期総会開かる

日中友好協会倉敷支部　宇野忠義

7月1日（土）午後、倉敷健康福祉プラザにて第19回総会が11名の参加で開催された。

栗本支部長の開会挨拶後、平井議長の司会で進められた。来賓として、岡山支部から真田支部長と小川理事が参加され、活動交流の挨拶がありました。

また、来賓挨拶として伊東市長のメッセージが読み上げられた。

議事報告、討議の前に、井上会長の全国理事会講演要旨の学習を行った。内容は、安保3文書の批判的検討と日中関係、日中友好運動の課題、進め方に関するものである（日中友好新聞4.15、5.1、5.15号に連載）。

議事では、理事長が一年間の活動報告とこれからの方針を提案し、つづいて、22年度決算報告と23年度予算案が提案され質疑、討論が交わされた。

討論では、会員の減少対策と各種文化活動の重要性、総会参加者の減少対策、来賓へのよびかけの文書伝達など、反省点、改善点が出された。また、事務局体制が弱体で会計や日常活動に支障が生じていることが指摘された。

会計監査は中田順士氏が入院中であり、監査が出来なかったこと、決算報告の数値、項目の不明点があること、県連が発足し、本部・県連・支部間での会計処理が従来と異なることになり、会計報告の事項・摘要の変更、整理が必要なことが明らかとなった。また、監査の複数選出が提案された。岡山支部の活動、経験なども含めて議論された。

監査報告がなかったことなど問題点保留ではあるが、議案が採択された。

筒井理事による二胡演奏があり、その後、新役員の選出を行った。従来役員全員が再任された。支部長は栗本泰治さん、顧問は宮地義男さん、理事は9名。会計監査については中田さんの退院を待って、以後検討することになった。

なお、第1回理事会が開かれ、宇野理事長、大本副理事長が選ばれた。

もうひとつの七夕

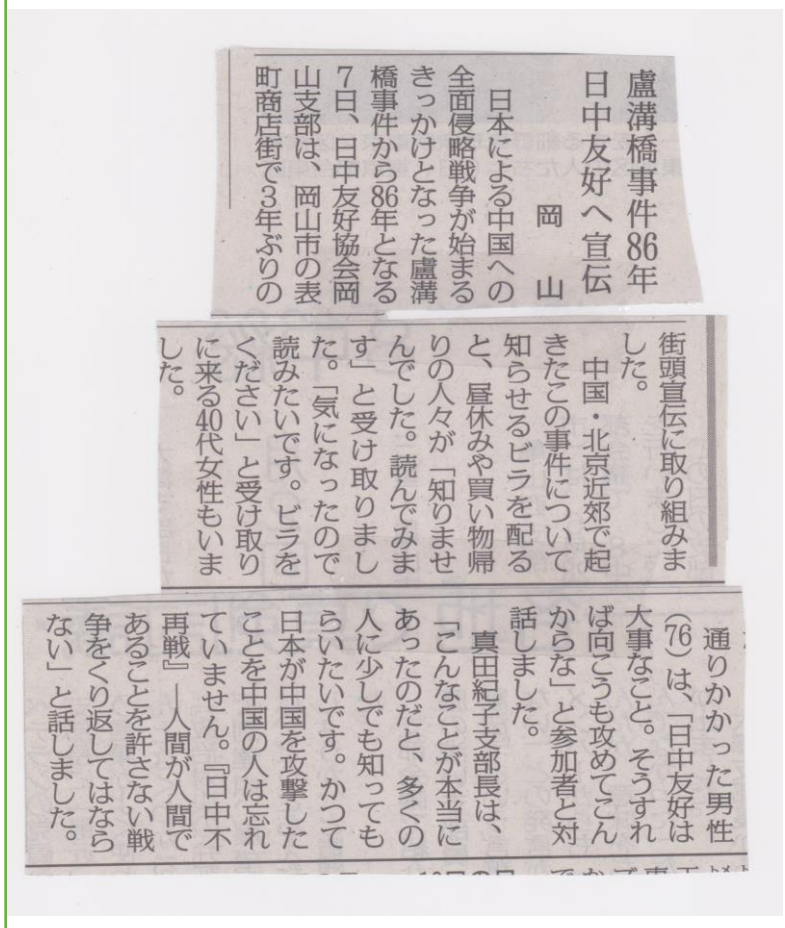
今年は盧溝橋事件86周年です。7月7日(金)に天満屋前アリスの前広場で、チラシを配布しました。

11時から河井さんと私の二人で、配布しました。そこへ取材に来られたのが、赤旗記者の女性と、民報の男性記者です。

自転車で待ち合わせていた若い女性にチラシを渡し、盧溝橋事件という言葉を聞いたことがありますかと聞くと、聞いたことがないという返事でした。中国へ日本が侵略していたことを伝えると、驚いたようすでした。若い人は86年も前の出来事を知らないでしょうね。伝えていくことの大切さを感じた日でした。

7月8日の新聞 赤旗」の10面、西日本のページに左記の記事が掲載されました。

真田



盧溝橋事件86年
日中友好へ宣伝
岡山

日本による中国への全面侵略戦争が始まるきっかけとなった盧溝橋事件から86年となる7日、日中友好協会岡山支部は、岡山市の表町商店街で3年ぶりの街頭宣伝に取り組みました。

中国・北京近郊で起きたこの事件について知らせるビラを配ると、昼休みや買い物帰りの人々が「知りませんでした。読んでみます」と受け取りました。「気になったので読みたいです。ビラをください」と受け取りに来る40代女性もいました。

通りかかった男性(76)は、「日中友好は大事なこと。そうすれば向こうも攻めてこんからな」と参加者と対話しました。

真田紀子支部長は、「こんなことが本当にあったのだと、多くの人に少しでも知ってもらいたいです。かつて日本が中国を攻撃したことを中国の人は忘れていません。『日中不再戦』―人間が人間であることを許さない戦争をくり返してはならない」と話しました。

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.iinaa.net/
メールアドレス
nicchuokayama@yahoo.co.jp

第 13 回井笠支部準備会が開かれました

7 月 11 日の水曜日 14 時から、井原市出部公民館で標記の会が開催されました。

当日参加者は、鳥越さん、木尾さん、三好さん、河井さん、宇野さん、と私（真田）の 6 人でした。

前回 4 月に予定していた準備会が中止になり、出席予定者の皆さんのご都合が悪い方も多くあり、特に議会が始まっていて議員さんは動けない状態です。ということで、参加者がいつになく少ない状態でした。

司会は宇野岡山県連会長が務められ、レジメを配り始められました。

レジメは、2023 年 7 月 8 日に行われた倉敷革新懇第 32 回総会講演の要旨でした。

講演会の講師は井上正信弁護士です。非常にわかりやすいレジメです。タイトルは、

“「危機の時代」に戦争ではなく平和の準備を―安保三文書が私たちにもたらすものは何か？私たちの対抗戦略を考える”

安保三文書は、台湾有事の際、我が国の総力を挙げて米国と共同して台湾防衛のため中国との戦争を行う体制を作るものとなっています。

①なぜ安保三文書を定めたのか、何を定めたのか？

キーワード　戦後の防衛政策の大きな転換点・反撃能力保有とそれを抑止力の中心にしたこと→台湾有事で米国と共同して台湾有事を抑止し、抑止力が敗れた場合には台湾防衛戦争を行う。

②ロシアによるウクライナ侵略は私たちに何を示しているのでしょうか？

安保三文書はロシアによるウクライナ侵略を最大限利用→「同様の事態が・・東アジアにおいて発生する可能性は排除されない」ウクライナは抑止力が不十分だったからロシアの侵略を抑止できなかった。だったら日本は抑止力をうんと強化しよう、そのための反撃能力だ。

・戦争は政治・外交の失敗　自然災害とは違う

・戦争はいきなり始まらない「攻められたらどうするんだ」は虞問

「攻められたらどうする」ではなく「攻められないためにはどうする」が大切。戦争を防ぐには、「攻められる前に何をするか」が重要。これが安全保障政策論だし憲法 9 条の出番だ。現在を「戦争前夜」にしないために。

③安保三文書が想定する台湾有事とはどんな事態か、日本の有事でしょうか？

台湾独立を阻止し、中国が台湾を統一するために武力侵攻する事態。これ以外にはありえない。

・カイロ宣言とポツダム宣言で、「台湾は（植民地支配していた日本から）中華民国へ返還されるべし」とある。しかし中華民国が台湾へ逃れ、中国本土で中華人民共和国が建国されたことが、現在の台湾問題の出発点となる。

・中国も米国も台湾をめぐり戦争になることを望んではいない。台湾世論も現状維持が大多数→「危機」は作られる。

・中国は「6 年以内」に台湾へ武力侵攻する（インド太平洋米軍司令官）

・中国と闘うための膨大な予算を要求するため危機を強調。

・「危機」を増幅させた日本のマスコミ

・作られた「危機」が本物の「危機」になる怖さ

台湾有事＝日本有事は、日本政府の政策選択の結果だ。
台湾有事＝日本有事にさせないための政策選択がある。

そのほか資料として、平和新聞、平和構想提言会議の提言「戦争ではなく平和の準備を」―“抑止力”で戦争は防げないー、防衛省資料「対中防衛の考え方」、柳沢協二氏の「戦争の不安の時代に求められる新しい考え方」、日本弁護士連合会のパンフレット「敵基地攻撃能力や反撃能力を日本は持ってよいのでしょうか？」などに簡単に目を通しました。

その後本題の会員拡大について、働きかける人をあげてゆき、数名の方があがりましたが、あらたな進展はありませんでした。

次回の準備会を 9 月 12 日（火）に決めて、終了しました。

真田

次回の新聞発送作業は7月31日(月)午前10時から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

井内　田
竹田　田
河池　田

中国映画

「非　情　城　市」

日時：7 月 16 日（日）

時間：14 時～　（159 分）

場所：岡輝公民館

参加費：３００円（準備費）